

徒然想

爽やかな季節です。各地でスポーツ大会も開催されているようです。この五月の青い空の下、多忙を理由に鈍ってしまった体を思い切り動かして汗をかくのはとても気持ちの良いものです。最近では健康志向のスポーツ大会も多くなり、子供からお年寄りまで楽しく参加できるイベントが増えてきているように思います。競うだけのスポーツではなく、自分のペースで体を動かしながら大会の雰囲気も満喫できるところが人気の秘密かもしれません。今、生活者が何を望んでいるのか、それをうまく組み込んだスポーツイベントが今後も盛り上がっていきそうです。さて、相変わらず厳しい状況が続く建設業界ですが、技術は最終的に生活者を支える力になるものです。建設業界の頭上に広がる空は、ため息でブルーに染まったかもしれません。しかし新しい価値観と発想で、輝く太陽の光に満たされる季節が到来することを信じております。

TECHNICAL TOPICS KRCの技術情報はこちら

埋蔵文化財発掘調査 電子報告書システムの開発

近年、広島市では、官公庁の集中する八丁堀、紙屋町周辺を中心として、広島城内の武家屋敷跡の発掘調査が行われています。貴重な発見も相次いでおり、多種多様な遺構遺物の出土に対する有効な記録方法の開発が急務となっていました。

そこで、今回の発掘調査(写真 1—広島城跡裁判所地点、調査実施:(財)広島市文化財団)では、3Dレーザ測量による遺構の記録を受託し実施しました。この方法は、記録保存という観点から見れば、複雑な遺構形状を3次元のデータとして記録可能で、周辺地形も含めた遺構の再現性が極めて優れていることから、理想的な記録方法であると考えられます。

報告書の作成にあたっては、取得した3次元データを精度を損なうことなく、かつ利用しやすい形態で報告したいという(財)広島市文化財団様の要望を受け、従来の紙による報告書としてではなく、新たな電子報告書システムの開発に取り組みました。

電子報告書システムには掘跡も含めて151の遺構を格納し、時代区分により7遺構面に区分して、データベース化しました(図 1)。3Dレーザデータより構築した遺構の3Dモデルは、従来までの図面による報告では不可能であった陰影処理による詳細起伏形状の確認や、任意位置での断面形状の確認が可能です(図 2)。また、システム化により、膨大な文書、写真、遺物図面などの関連情報を迅速に検索・閲覧可能となりました(図 3)。

他の発掘調査現場でも、更なる改良を加えながら、3次元データによる記録手法を活用展開していきたいと考えます。



写真1 発掘現場

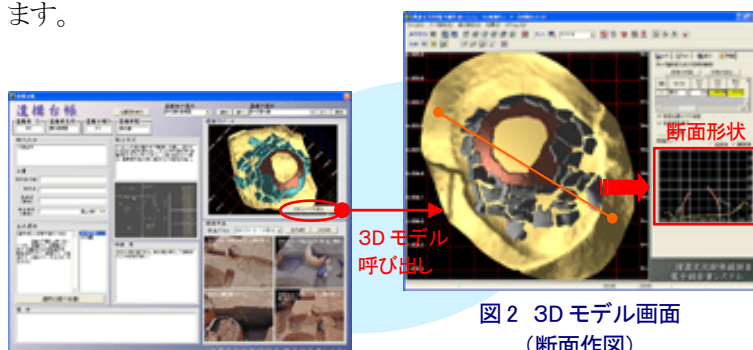


図1 システム遺構管理画面

図2 3Dモデル画面
(断面作図)

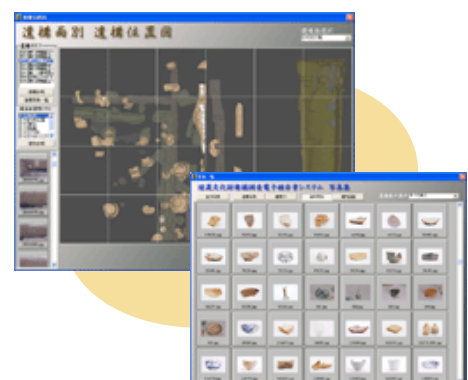


図3 遺構位置と遺物一覧

(株)計測リサーチコンサルタントへのお問い合わせは、

電子メール: krc@krcnet.co.jp HP: <http://www.krcnet.co.jp/contact/contact.htm> で承っております。